

平成 28 年度活動報告書 (1/3)

| | |
|------------|---------------------|
| 学部・委員会名 | 生物産業学部 |
| 学部長・委員長等氏名 | 学部長 黒瀧秀久 |
| 担当所管 | オホーツクキャンパス事務部 |
| テーマ | 平成 30 年度に向けた学部改組の検討 |

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のための PDCA サイクルの基本単位です。

| |
|---|
| 1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など） |
| 「地域創生（共創・共育・共感）システムの構築」 －入学から卒業、就職まで一貫した取り組み－ |
| 1. 全学部教職員による学部改組の実現（学科横断的、事務と教員が一体となった学部の構築） 2. 学部改組に連動した産官学金連携によるフィールドセンター（仮称）の充実 |
| 2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど） |
| 1. 生物産業学部の特徴を盛り込んだ学部改組に向けた申請業務 ①改組ワーキンググループを中心とした骨子（概要）確定（4月中） ②学部共通学科横断的体験型重視カリキュラムの作成（～5月） 2. 学部改組と連動したフィールドセンター構築に向けた体制づくり ①125周年記念事業「地方活性化と地方創生をめぐる新たな展望」の開催 ②地方創生推進体制の整備（オホーツク総合振興局と生物産業学部の連携による） |
| 3. 達成度を判断するための指標 |
| 1. ①改革推進室と連携した工程表に基づく進捗管理（平成 28 年 12 月設置届出） ②学部共通学科横断的体験型プログラムを盛り込んだ学部改組届出 2. ①自治体・企業・団体・教育機関とのコンソーシアム事業として年内に開催 ②斜網地区との連携協定締結を経て、管内連携協議会（仮称）の設置 |
| 4. 成果・評価 |
| ■成果 1. については、大学改革推進室と連携し学科名称変更に係る文部科学省への届出を無事終えた。また、平成 31 年度のカリキュラム改正に向けてワーキンググループを設置し、教職協働による学科横断的体験型プログラム（生物産業体験実習）を一部試行的に立ち上げた。 2. については、フィールドセンターを構築するための基盤となる取り組みとして、産官学金労言による連携協定を積極的に進めたとともに、当該連携から展開する第 1 回地方創生会議を開催した。 ■評価（5～1 で記載してください） 学部改組の進め方に変更（2段階方式に）があったものの、1・2 とも上記のとおり目標に向けて着実な進展と成果があったことから、評価は 4 とする。 |
| 5. 課題及び改善事項 |
| 平成 31 年度のカリキュラム改正と同時期に教職課程の再課程認定審査を受けることとなった。当該再課程認定への影響に配慮しつつ、特色あるカリキュラム改革が求められる。 |
| 6. 平成 29 年度への継続の有無 |
| 有 |

平成 28 年度活動報告書 (2/3)

| | |
|------------|---------------|
| 学部・委員会名 | 生物産業学部 |
| 学部長・委員長等氏名 | 学部長 黒瀧秀久 |
| 担当所管 | オホーツクキャンパス事務部 |
| テーマ | 入試改革制度 |

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のための PDCA サイクルの基本単位です。

| |
|---|
| 1. 目標 (改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など) |
| 1. フロンティア入試の拡充 (目的意識の高い学生のスカウトと育成プログラムの実施) 2. 戦略的広報の推進 (魅力あるキャンパスの情報発信、学部 HP のリニューアル) |
| 2. 実施計画 (具体的な方法・手段とスケジュールなど) |
| 1. フロンティア入試の拡充 ①フロンティア入試入学者に対する榎本塾の開講 (4月～)・検証 (～2月) ②フロンティア入試コース新設 (国際人・スペシャリスト・チャレンジ) (4月実施要綱確定・4月～広報開始・5月～各種イベント広報実施・10月・3月試験実施) 2. 学部独自の広報実施 ①学部の特色を前面に打ち出した広告を展開 (学部の認知度向上) ②スカウト型高校訪問の実施 (高校とのパイプ強化) 3. 学部 HP のリニューアル (外部への発信方法) ①学部の特徴 (世田谷キャンパス・厚木キャンパス、他大学との差別化、地域連携体験型・産官学金連携型・フィールド重視型を表現) ②未来型入試制度の広報 (生きる力・農の心を持った人材育成) ③学科横断的カリキュラム (学部改組との連動・地域と教職員が一体となったプログラム) ④各種イベントの効果的な掲示 (インパクト) とコアとなるイベント情報とのリンク |
| 3. 達成度を判断するための指標 |
| 1. ①1 年次カリキュラムの運用 (4月～3月) 検証 (2月) 2 年次カリキュラムの検討承認 (～3月) ②平成 29 年度新入試制度による志願者が平成 28 年度入試志願者を上回る (全入試計) 2. ①全国紙における広報実施 (榎本武揚の功績再評価と学部改組) ②高校のセレクト (4月)、派遣対象選抜・育成 (4月～6月)、派遣 (5月～7月) ③スカウト対象高校の志願者 (全入試制度) を比較 (実人数増) 3. ①～③学部 HP サイトの検索状況分析 (アクセス数とアクセス経路) ④各種イベントでの来場者へのアンケート |
| 4. 成果・評価 |
| ■成果 1. については、フロンティア入試入学者を中心とした榎本塾 1 期生のプログラムを多くの教職員が参画して実施した。また、フロンティア入試 (後期) を新設し、フロンティア精神等高い志を持った受験生の受験機会の拡大を図ったが、受験者が前年度と比較して下回った。 2. については、入試課と各学科が連携し、オープンキャンパス・キャンパスツアーでオホーツクキャンパスの魅力を伝えるための新規企画、Facebook による広報、学部 HP の一部リニューアルを実施した。 ■評価 (5～1 で記載してください) 志願者が前年度と比較して下回ったこと、広報等に対する分析・評価が不十分であったことから、評価は 2 とする。 |
| 5. 課題及び改善事項 |
| 実際の受験・入学に繋がるようターゲットを絞ったスカウト型広報と、農学志向・北海道志向など目的意識の高い学生を確保するための多元的評価に基づく個別選抜入試導入の検討が必要。 |
| 6. 平成 29 年度への継続の有無 |
| 有 |

平成 28 年度活動報告書 (3/3)

| | |
|------------|---------------|
| 学部・委員会名 | 生物産業学部 |
| 学部長・委員長等氏名 | 学部長 黒瀧秀久 |
| 担当所管 | オホーツクキャンパス事務部 |
| テーマ | ライフサービスの向上 |

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のための PDCA サイクルの基本単位です。

| |
|--|
| 1. 目標 (改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など) |
| 1. 食育を基本とした食環境の改善 |
| 2. キャンパス内の環境改善 |
| 2. 実施計画 (具体的な方法・手段とスケジュールなど) |
| 1. ①食環境改善プロジェクトの発足 (4 月) ②教職員・学生・食堂委託業者が連携した学生の食生活実態調査の実施 (新入生～5 月・在学生～7 月) ③平成 29 年度実施に向けた食育プログラム (仮称) の構築 |
| 2. ①ラウンジ・食堂等のくつろぎスペースの充実 (多目的展示・7 月～) ②2 階回廊の空間を有効活用 (整備済場所の活用・4 月～) ③2 階回廊の展示スペース拡大 (7 月～) |
| 3. 達成度を判断するための指標 |
| 1. ①プロジェクト発足の機関承認 ②プロジェクトによる新入生と在学生に対する調査 (アンケート) の実施結果の報告 ③学部改組カリキュラムに連動させた食育プログラム (案) の提案 |
| 2. ①ラウンジ・食堂に展示スペースを設置し各イベントに応じた企画展示を実施 ②既設展示スペースにて企画展示を実施 ③回廊の展示スペース拡大措置実施 |
| 4. 成果・評価 |
| ■成果 |
| 1. については、教職協働によるワーキンググループを立ち上げたとともに、学生アンケートを実施し学生の食生活の実態や食育に対する意識等を把握できた。しかし、具体的な食育プログラムの策定・実施までには至らなかった。 |
| 2. については、回廊の展示スペースを拡大し各種イベントの告知や報告の場として活用した。一方で、ラウンジ・食堂のスペースの有効活用は、学生委員会が重点課題として検討に着手したが、活用案の策定・実施までには至らなかった。 |
| ■評価 (5～1 で記載してください) |
| ワーキンググループや委員会で検討されたものの、実施計画にあげた目標値は達成できなかたことから、評価は 2 とする。 |
| 5. 課題及び改善事項 |
| 本テーマについては、学生目線に立ったプログラムや環境整備等が不可欠 (実際に学生にとって必要とされるもの) であることから、これらを進めるにあたっては教職員だけでなく学生自身にも参画させることに留意する。 |
| 6. 平成 29 年度への継続の有無 |
| 有 |